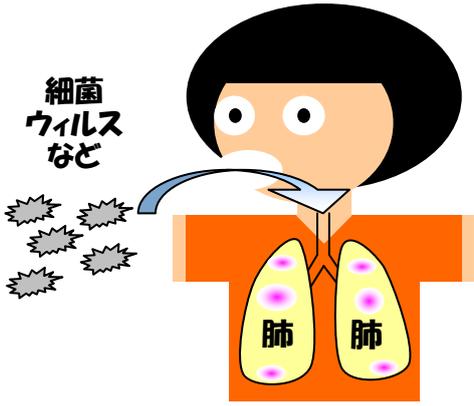




エリンギの肺炎マウスモデルに対する抗炎症作用



肺炎と抗炎症作用について

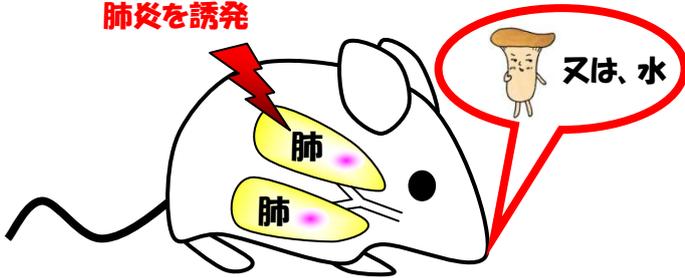


肺炎は、細菌やウイルスなどの病原微生物が肺に侵入し、肺組織で急性の炎症反応を起こす疾患です。炎症反応はもとは、このような病原微生物を殺すための反応ですが、急性の炎症反応は、その過剰な殺菌作用により肺組織まで傷つけてしまいます。この過剰に起きてしまう炎症を抑える働きを**抗炎症作用**といいます。

肺炎マウスモデルを使った実験

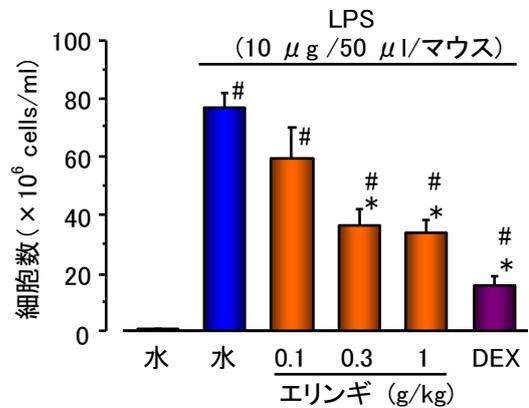
細菌内毒素(LPS)を経鼻接種
肺炎を誘発

1時間前に経口投与

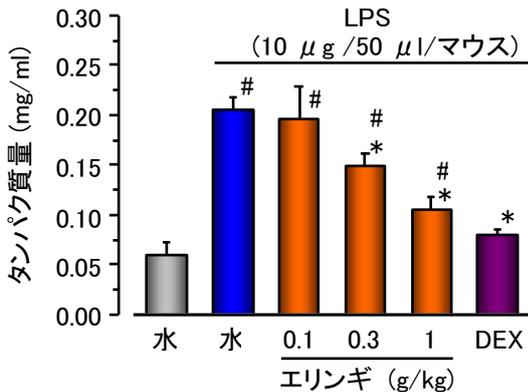


6時間後、肺炎を起こしたマウスの肺では、細胞膜透過性上がり、炎症性細胞が集まることで、一酸化窒素(NO)が過剰に産生され、炎症が悪化します。

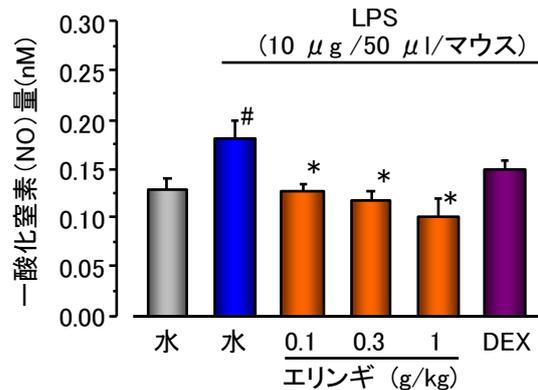
結果1-1: 肺洗浄液中の細胞数



結果1-2: 肺洗浄液中のタンパク量 (細胞膜透過性の指標)



結果1-3: 肺洗浄液中の一酸化窒素(NO)量



抗炎症薬デキサメタゾン (DEX 5 mg/kg) はLPSの経鼻接種1時間前に腹腔内注射した。
n = 6 (DEXはn=4), #p<0.05 vs 水, *p<0.05 vs 水+LPS

エリンギの経口前投与により、LPS誘発肺炎マウスモデルの肺での炎症が抑えられた。

**エリンギの動物レベルでの抗炎症作用が明らかとなった。
エリンギは細菌感染による肺炎予防効果を持つことが期待できます。**

試験の詳細は、日本機能性食品医学会第10回大会(12月15-16日、横浜)にて発表されました。



※無断での複製・転載・使用を固くお断り致します。

ホクト株式会社 本社〒381-8533 長野市南堀138-1 TEL: 026-243-3111(代表)